

## 平成29年度ポリナビワークショップ in 新潟 開催要項

### 1 テーマとねらい 明日の看護を変えるのは私たちだ

私たちは夢中で看護をする毎日です。「もっとやりがいを感じたい!」という意見が現場の声で多く寄せられています。「患者さんに寄り添った優しい看護がしたい」「ベッドサイドで看護を実践したい」「働きやすい環境で看護をしたい」。職場を超えて看護の魅力や身近な問題を語り合い、私たちができることを考え、行動につなげよう。

2 主催 新潟県看護連盟青年部・新潟県看護連盟

3 日時 平成29年5月13日(土) 13:30~16:10 (受付13:00~)

4 会場 NICO プラザ 新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル11階

\*「ホテル日航新潟」と同じ建物内です。

看護連盟携帯電話 090-5492-2363

\*会場周辺の有料駐車場の料金割引はありません。公共交通機関をご利用ください。

5 対象者 20~40歳代の看護職者および看護学生 100名

6 参加費 看護連盟会員・学生 無料 連盟会員以外 1,500円

### 7 内容および日程

13:00	13:30	13:35	13:50	14:40	15:40	16:10
受付	オリエンテーション 開会あいさつ	講演 現場の声を届けよう 青年部委員長 清水朋宏	講演 明日の看護を変えるのは君だ 日本看護連盟幹事 長野県看護連盟青年部代表 内山博幸さん	グループワーク	発表 講評	閉会

8 申し込み 参加申込書に必要事項を記入し、29年4月20日(木)までに郵送またはFAXにてお申し込みください。ホームページ上の行事・研修会から申込書をダウンロードし、メール添付での申し込みも可能です。(メール送信はホームページトップの右下のメールイラストからできます。)



### 講師 内山博幸さんのプロフィール

◆日本看護連盟幹事・長野県看護連盟青年部代表。31歳。(職歴9年目)

長野県八坂村(現大町市)生まれ。

◆松本深志高校、浜松医科大学医学部看護学科卒業後、信州大学附属病院呼吸器外科内科、

現在は厚生連北アルプス医療センターあづみ病院地域包括ケア病棟に勤務。

長野県では施設訪問や若者向けの研修講師として活躍中。若手看護師と連携を広め、抱えている課題等を真摯に話し合い、看護に対する夢の実現に向けて、趣味のホームページ・動画作成を生かし、若者の立場から広く発信しています。★活動の一部がアンフィニ春号p46に掲載されています★

新潟県看護連盟 行き FAX 025-266-2322

# ポリナビワークシヨツプ in 新潟

## 研修参加申込書

平成 年 月 日

新潟県看護連盟会長 様

施設名 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

申込責任者 \_\_\_\_\_

該当するところに○をつけてください。

	氏名	連盟入会状況		
		会員	会員以外	看護学生
1		会員	会員以外	看護学生
2		会員	会員以外	看護学生
3		会員	会員以外	看護学生
4		会員	会員以外	看護学生
5		会員	会員以外	看護学生

込用紙に書ききれない場合は、お手数でもこの用紙をコピーしてください。

提出期日 4月20日(木)

これまでの

## ポリナビワークショップ参加者の声

自分の想いを先輩や上司に伝えることの  
大切さがわかりました。

自分が周囲に働きかけて日々の業務の見直し  
をしていかななくてはならないことを学びました。

他の病院の看護師の現状や、考え方を知ることができ、  
研修に参加することは大切だと思った。



機械化、ロボット化されていく中で  
温かみのある看護を提供したい。

看護の未来について考える機会になった。

大学生の時に先生から受けた講義を思い出した。

患者側からの視点から問題提起できる  
講師に触発された。



次は皆さんが参加して体験してください。

日本看護連盟幹事・長野県看護連盟青年部委員長

## 内山博幸 さん



日本看護連盟役員紹介 [記事全文]

### 一言メッセージ

若者に“負担”を感じさせず、自分から動く気になる、その結果自分たちの境遇や状態が気づいたら、よくなっている。

そうということが自然とできるような、継続的に取り組める活動展開の支えになれるよう、がんばっていきたいと思っています。

私にとって最初の身近な看護師は母でした。小さな村の診療所で時には医師と対峙するくらい気合がある母を見てきた私は、看護師はなんと信念のある仕事なのだろうと思っていました。大学へ進み、学ぶにつれ、すべての人がそうではないことも感じつつありました。看護について議論しながら前に進もうと思う人は、そう多くはなかったのです。

学生として勉学に励むなか、私は体を壊してしまい、卒業できるかどうか、働けるかどうか焦り悩む日々が続きました。結果的に、なんとか国家試験を抜け、就職し働けるようにはなったものの、病気に負けず、早く一人前になりたいという気持ちと、そうはいかない身体とのアンバランスさに四苦八苦する日々が続きました。そのときに、メンタルケア担当の副看護部長と、当時の看護部長に半年以上にわたり、たくさんの面接、仕事への配慮をしていただきました。厳しい言葉や思いやりの言葉も、たくさんいただきました。その結果、今現在に至るまで働き続けられています。あのような心の限界まで考えてくれるような人がいる、看護師という仕事に再び希望を持ち始めました。ここまで気遣える職場や、無理なく働けるような世界を私も作りたい、と思うようにもなりました。

しかし、どうやったらそのようなことができるか。具体的な行動は思いつかず、現場で黙々とできることをする日々が続いたころ、石田まさひろ参議院議員と出会いました。我々のなかのもやもやを幅広い視点で語るその内容に、私はこの人の考える道が看護の未来になるだろうと確信しました。そして、それを行うには、特徴的な活動を探すのではなく、自分たちで学び、調べ、より望ましい考えを皆で共有・発信していくことだと気づきました。この思いを抱き、ポリナビ委員会に参加し、気づいたら委員長となり3年間、長野県でポリナビ活動を継続してきました。そして今回、縁があって日本看護連盟幹事を拝命することになりました。「頼まれごととは試されごと」と長野県ポリナビ委員会で行われた言葉を胸に、全力でできることをしていきたいと思っています。